

## 授業科目

## 老年保健看護学演習

【担当教員名】 木 部 美知子、梨 本 光 枝 近 藤 浩 子、恩 地 裕美子	対象学年	2	対象学科	看護
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

## 【概要・一般目標 : G10】

高齢者の暮らしの多様性、および老年医療・保健・福祉・介護制度など、高齢者・家族の社会生活とその看護に関する基礎知識を学ぶ。また高齢者の健康問題が、加齢による心身機能の変化、生活環境、生活習慣など多様な因子に影響を受け、個別的で複雑な構造を持っていることを理解する。さらに高齢者に生じやすい健康問題を捉え、高齢者に個別的看護を提供するためのアセスメント能力を養い、高齢者の自立生活の維持・拡大に焦点をあてた看護実践のプロセスを学ぶ。

## 【学習目標・行動目標 : SBO】

1. 健康問題がある高齢者とその家族に対する看護を理解する。
2. 高齢者を取り巻く家族その他の人々の様々な支援関係や活動・役割が理解できる。
3. 高齢者のQOLに向けた看護の役割を理解する。
4. 高齢者・家族の暮らしを支える社会保障制度・施策のしくみと課題を理解する。
5. 社会資源を有効に活用できる支援と、地域のケアシステムにおける看護の役割を理解する。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	PBL 事例 1 : 認知障害のある80歳女性 事例 2 : 脳梗塞後遺症のある78歳男性 事例 3 : 大腿骨頸部骨折の68歳女性	1 ~ 4	PBLチュートリアル
2	PBL		
3	PBL		
4	PBL		
5	PBL		
6	PBL		
7	PBL PBLの進め方 1. グループメンバー間で事例の全体像を整理し看護問題・ニーズを明確化する。 各メンバーが学習する内容・項目を共有する。 2. 看護問題解決に必要な看護援助を検討する。 3. グループメンバー間で事例の援助計画を立案し発表する。		
8	老年者の健康維持・介護予防を目的とした看護	1 ~ 3	講義
9	日常生活活動（ADL）評価の意義と方法 老年者のADL援助技術：起居動作・移乗・移動動作	1 ~ 3	講義・演習
10	老年者のADL障害と援助技術：更衣・清潔・入浴	1 ~ 3	演習
11	老年者の全体像、健康状態をとらえるアセスメントのための看護技術	1 ~ 3	講義・演習
12	老年者の摂食・嚥下障害のアセスメントと技術	1 ~ 3	演習
13	老年者の排泄障害のアセスメントと援助	1 ~ 3	演習
14	老年者の廃用性症候群（褥瘡・関節拘縮など）予防のためのアセスメントと援助	1 ~ 3	演習
15	まとめ	1 ~ 3	演習

【使用図書】	【書名】	【著者名】	【発行所】	【発行年・価格 他】
教科書 (必ず購入する書籍)	老年看護技術—アセスメントの ポイントとその根拠—	奥野 茂代、 大西 和子 編集	ヌーベル ヒロカワ	2,100円+税
参考書	老年看護学—概論と看護の実践—	奥野 茂代、 大西 和子 編集	ヌーベル ヒロカワ	3,900円+税
その他の資料	高齢者の健康と障害 老年看護の実践	堀内 ふき 他 大渕 律子	メディカ出版	3,400円+税 3,400円+税

## 【評価方法】

参加態度20%  
学習内容50%  
筆記試験30%

## 【履修上の留意点】

【評価方法】参加態度20% 学習内容50% 筆記試験30%